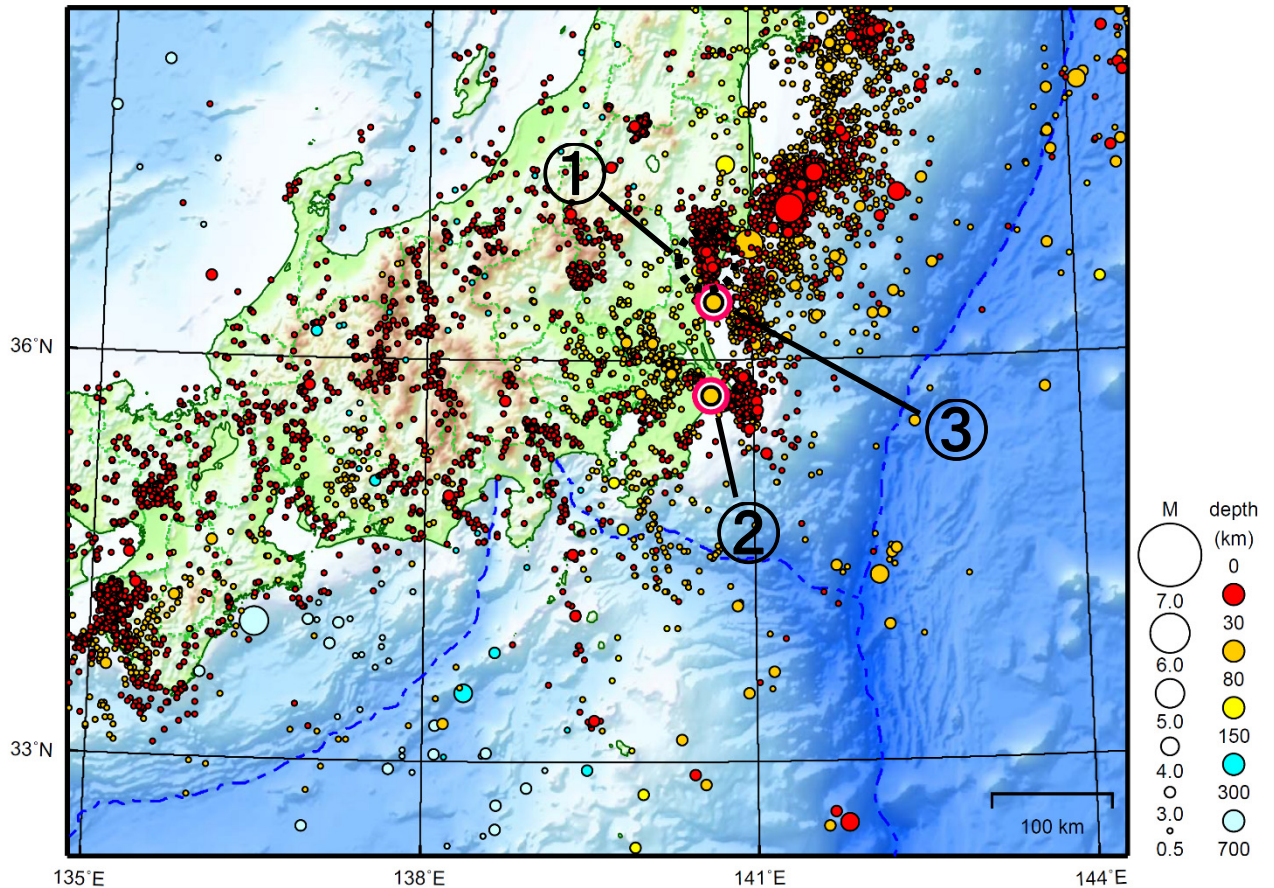


# 関東・中部地方

2017/01/01 00:00 ~ 2017/01/31 24:00

N=13363



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOPO2v2を使用

- ① 茨城県北部では今期間に最大震度4以上を観測する地震は発生しなかった。
- ② 1月13日に千葉県北東部でM4.9の地震（最大震度3）が発生した。
- ③ 1月18日に茨城県沖でM4.2の地震（最大震度4）が発生した。

[上述の地震はM6.0以上または最大震度4以上、陸域でM4.5以上かつ最大震度3以上、海域でM5.0以上かつ最大震度3以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

# 2016年12月28日からの茨城県北部の地震活動

2017年1月中の最大規模の地震は、1月1日に発生したM3.7の地震（最大震度2、深さ7km）であった。この地震の発震機構は、東北東-西南西方向に張力軸を持つ正断層型である。また、1月中に震度1以上を観測した地震は13回（最大震度2：4回、最大震度1：9回）発生した。

2016年12月28日からの茨城県北部の地震活動は減衰しつつも、北北西-南南東方向に延びる長さ約15kmの領域で継続している。

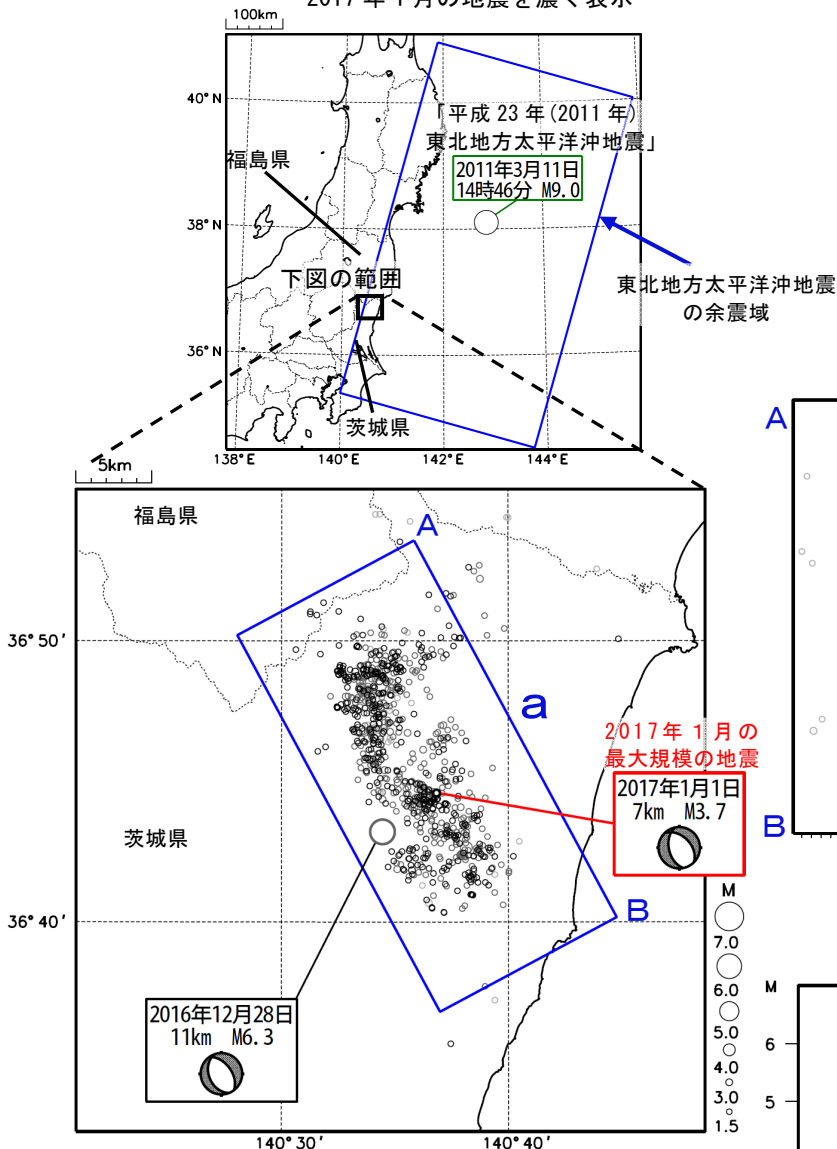
## 震央分布図

(2016年12月1日～2017年1月31日、深さ0～20km、 $M \geq 1.5$ )

2016年12月27日までの地震を薄く表示

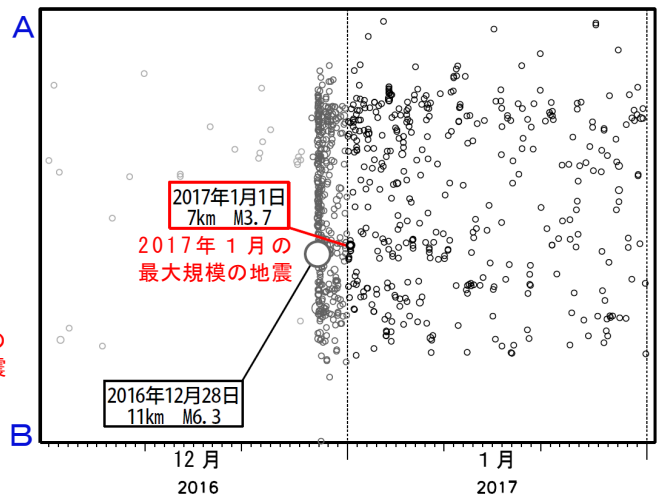
2016年12月28日から12月31日の地震をやや濃く表示

2017年1月の地震を濃く表示

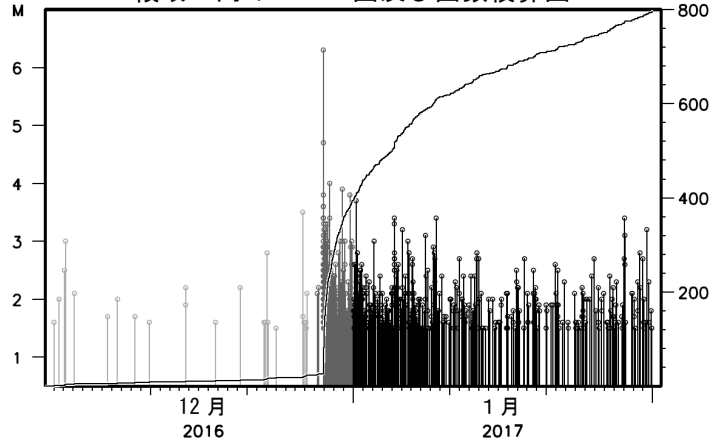


※12月28日の地震発生後には、未処理の地震が存在している。

## 領域a内の時空間分布図（A-B投影）



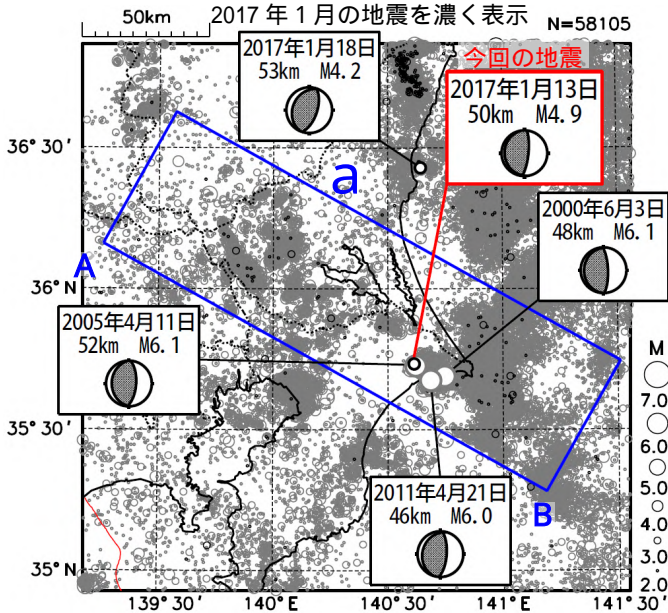
## 領域a内のM-T図及び回数積算図



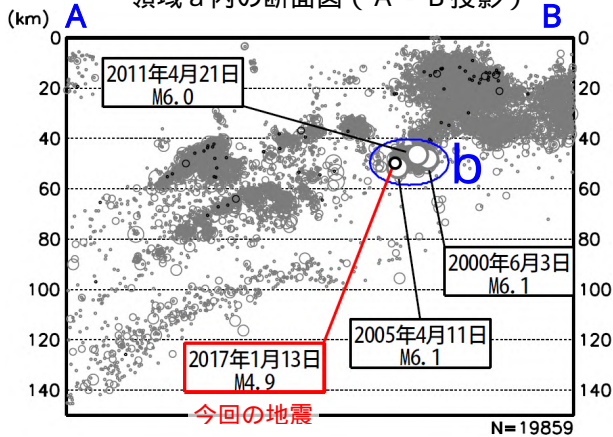
# 1月13日 千葉県北東部の地震

震央分布図

(1997年10月1日～2017年1月31日、  
深さ0～150km、M 2.0)

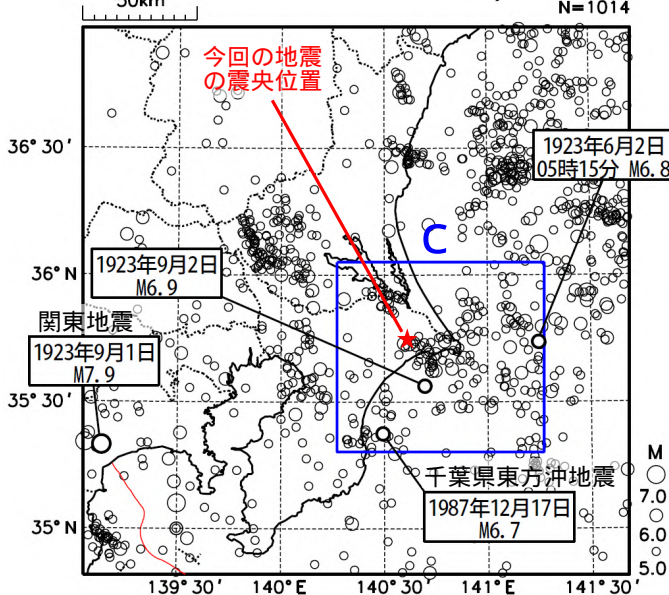


領域a内の断面図 (A - B 投影)



震央分布図

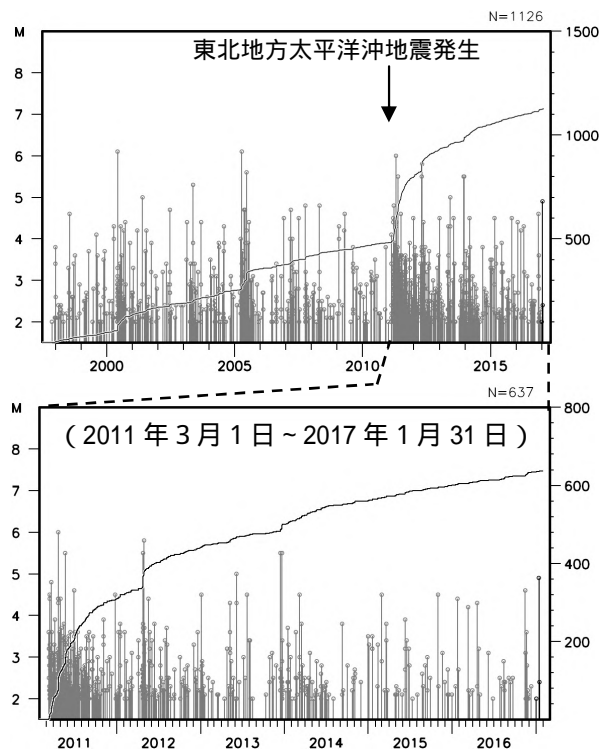
(1923年1月1日～2017年1月31日、  
深さ0～150km、M 5.0)



2017年1月13日12時25分に千葉県北東部の深さ50kmでM4.9の地震(最大震度3)が発生した。この地震は、発震機構が東西方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートとフィリピン海プレートの境界で発生した。

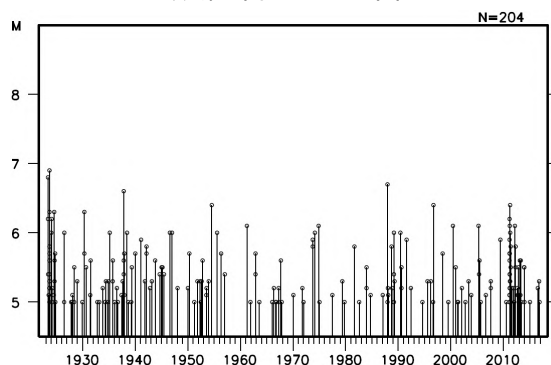
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近(領域b)は、M6程度の地震が時々発生している。「平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震」の発生以降、地震活動がより活発になっていたが、その後、徐々に減衰している。

領域b内のM - T図及び回数積算図



1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺(領域c)では、M6.0程度の地震が時々発生している。1987年12月17日にフィリピン海プレート内部で発生した千葉県東方沖地震(最大震度5)では、死者2人、負傷者161人、住家全壊16棟、住家半壊102棟、住家一部破損72,580棟などの被害が生じた(被害は「日本被害地震総覧」による)。

領域c内のM - T図



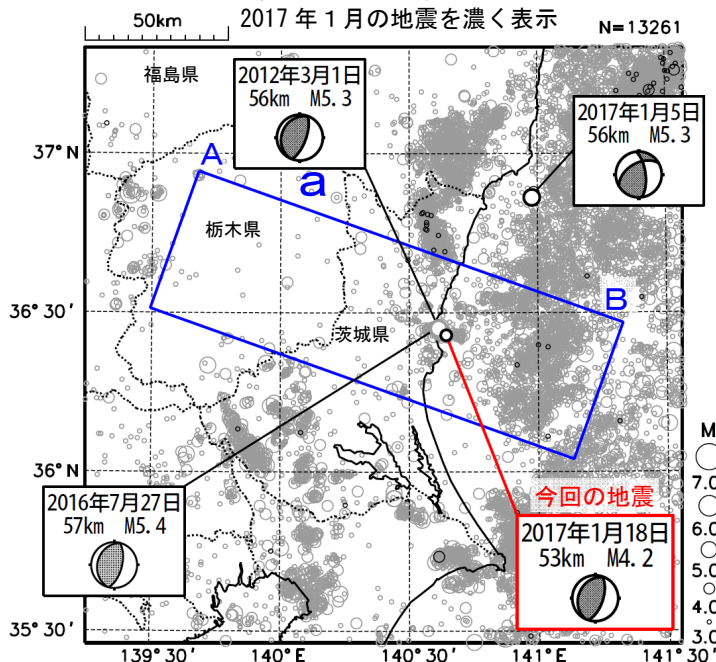
# 1月18日 茨城県沖の地震

## 震央分布図

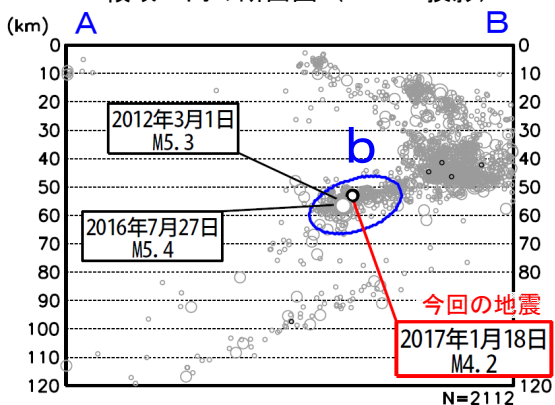
(1997年10月1日~2017年1月31日、  
深さ0~150km、 $M \geq 3.0$ )

2017年1月の地震を濃く表示

N=13261



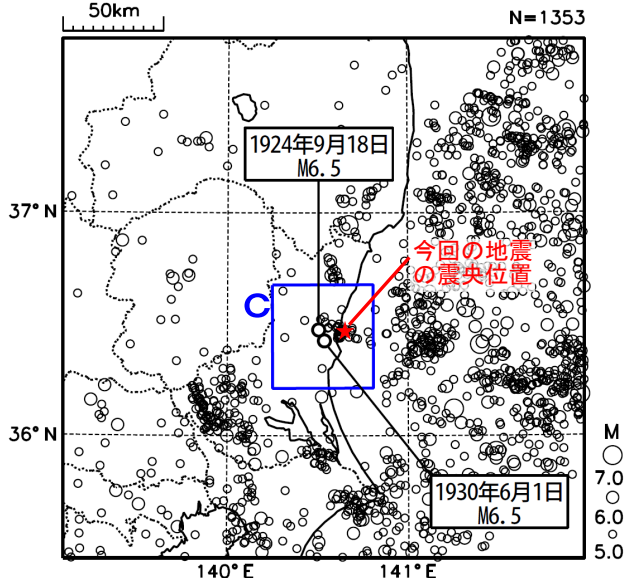
## 領域a内の断面図 (A-B投影)



## 震央分布図

(1923年1月1日~2017年1月31日、  
深さ0~150km、 $M \geq 5.0$ )

N=1353

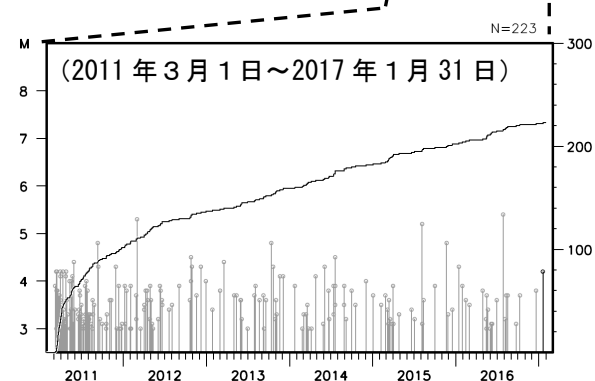
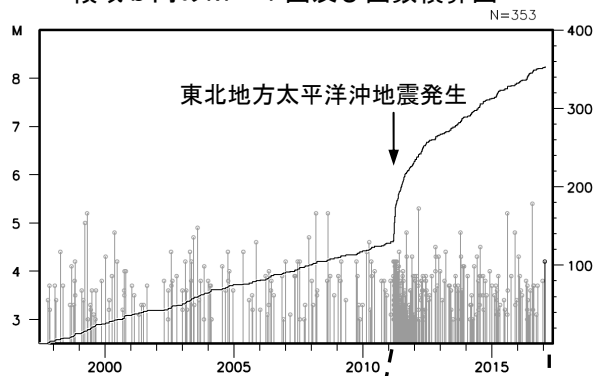


2017年1月18日17時19分に茨城県沖の深さ53kmでM4.2の地震 (最大震度4) が発生した。この地震は、発震機構が西北西-東南東方向に圧力軸を持つ逆断層型で、太平洋プレートと陸のプレートの境界で発生した。

1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近 (領域b) は、M5程度の地震が時々発生している。「平成23年 (2011年) 東北地方太平洋沖地震」の発生以降、活動がより活発になっており、2012年3月1日にはM5.3の地震、2016年7月27日にはM5.4の地震 (ともに最大震度5弱) が発生している。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央付近 (領域c) では、M5.0以上の地震が度々発生しており、このうち、1930年6月1日に発生したM6.5の地震 (最大震度5) では、がけ崩れ、煙突倒壊などの被害が生じた (「日本被害地震総覧」による)。

## 領域b内のM-T図及び回数積算図



## 領域c内のM-T図

